



「桜の咲くころに」

はしが自分の手に合って使いやすいように、何回も持って見ながら彫刻刀ややすりで削りました。また、はし置きは、猫の顔にしてみました。

敷き紙は、春をイメージして桜を散らしてみました。細かい作業だったので大変でした。



「バラに舞い散る白雪」

見た感じはバラに雪が舞い積もっている様子をイメージしました。

紫と白色の紙で、冬を感じを表しました。バラと雪のマッチが見所です。のぞいてみて下さい。



「秋のはっぱ」

はしをつくる時は、持つところは太く、食べるところは細くするのが大変でした。はし置きを作る時は、はしがきちんと置けるように削りました。

はしの下に敷く敷き紙を作る時は、秋っぽくしたいと思って、茶色の画用紙を葉っぱの形に切ってはりつけました。



「草木は輝き続ける」

苦勞したところは、緑と緑の間隔を均一にするのが大変だった。工夫したところは、角に花を付けたところです。金と緑のマッチを見やがれ

---



「みつばちのとぶ季節」

黄緑とピンクと緑を使って春を表現しました。みつばちを作って、春の雰囲気を出しました。はしは、小刀や彫刻刀を使って削り、はしの形にしました。細くするのが難しかったです。



「氷の水面」

結晶のところと、もう一つの方の水が出るように見えたり、ひび割れに見せたり、流れのように見えなくもない風にしたところを工夫した。



「みのりの秋」

はしは細く削るのがとても難しかったです。きれいにつやが出て良かった。まつぼっくりがうまくできた。



「ひまわりと麦わら帽子」

はしを削って形にするのが大変だったし難しかったです。はし置きは、熊の形にしました。下に敷く紙は、夏をイメージしてひまわりと麦わら帽子をつくりました。夏らしい雰囲気になったと思います。